

公立高等学校配置計画

(令和 8 年度(2026年度)～10年度(2028年度))

- ・ 令和 8 年度(2026年度)高校配置計画変更
- ・ 令和 9 年度(2027年度)高校配置計画変更
- ・ 令和10年度(2028年度)高校配置計画

令和 7 年 (2025年) 10月

北海道教育委員会

目 次

I	公立高等学校配置計画（令和８年度（2026年度）～10年度（2028年度））策定の考え方	
1	趣旨	1
2	中卒者数の見込み	1
3	基本的考え方	1
4	配置計画（令和８年度（2026年度）～10年度（2028年度））の概要	2
5	地域連携校等の再編整備の留保	2
6	再編統合に伴う在校生の進級・卒業の取扱い	3
7	配置計画の変更	3
II	公立高等学校配置計画（令和８年度（2026年度）～10年度（2028年度））の内容	
1	中学校卒業者数	4
2	欠員の状況	4
3	定員及び中学校卒業者数に対する割合	4
4	配置計画（令和８年度（2026年度）～10年度（2028年度））の学校別内訳	5
5	中学校卒業者数の推計及び推移	8
III	公立高等学校配置計画（令和８年度（2026年度）～10年度（2028年度））学区別個表	
	空知南学区	10
	空知北学区	11
	石狩学区	12
	後志学区	14
	胆振西学区	15
	胆振東学区	16
	日高学区	17
	渡島学区	18
	檜山学区	19
	上川南学区	20
	上川北学区	21
	留萌学区	22
	宗谷学区	23
	オホーツク中学区	24
	オホーツク東学区	25
	オホーツク西学区	26
	十勝学区	27
	釧路学区	28
	根室学区	29

I 公立高等学校配置計画（令和8年度（2026年度）～10年度（2028年度）） 策定の考え方

1 趣旨

「公立高等学校配置計画」（以下「配置計画」という。）は、高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本として、中学校卒業者数（以下「中卒者数」という。）の状況を踏まえ、生徒の多様な学習ニーズ、進路動向などに対応した学校・学科の配置や規模の適正化を図るために、令和8年度（2026年度）及び令和9年度（2027年度）の計画の一部を変更し、令和10年度（2028年度）の配置計画を策定するとともに、令和11年度（2029年度）から令和14年度（2032年度）までの見通しを示すものである。

2 中卒者数の見込み

本道の中卒者数は、令和8年（2026年）に3万9,836人、令和9年（2027年）に3万9,084人、令和10年（2028年）に3万8,043人となる見込みであり、その後も総じて減少傾向にある。

3 基本的考え方

配置計画の策定に当たっては、令和5年（2023年）3月に策定した「これからの高校づくりに関する指針」改定版（以下「指針」という。）に基づき、中卒者数の増減に適切に対応し、教育水準の維持向上などを図る観点から、市町や圏域において複数の高校が設置されている場合、関係市町村の参画を得ながら高校の役割分担や定員調整も含めた具体的な配置の在り方を検討するなど、地域の実情、私立高校の配置状況等を考慮しながら定員の調整や学校の再編整備等を行う。

なお、生徒の多様な学習ニーズなどに対応するため、次のとおり多様なタイプの高校づくり等を推進する。

また、いわゆる高校無償化やそれに伴う高校教育改革等の国の施策による生徒の進路動向への影響を勘案する。

(1) 総合学科の設置

生徒の多様な能力・適性、興味・関心、進路希望等に応じて、普通教育と専門教育に関する多様な科目を選択して学ぶことができ、幅広い進路希望に対応が可能となる総合学科の設置を進める。

(2) 単位制の導入

学年による教育課程の区分を設けず、高校の生徒が必ず学ばなければならない科目のほか、学校が開設した多数の選択科目の中から、興味・関心や進路希望等に応じて自分で科目を選択し、主体的な学習が可能となる単位制の導入を進める。

(3) アンビシャススクールの導入

多様な学校選択幅のある学区において、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や、一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育むことに重点を置くアンビシャススクールの導入を進める。

(4) 普通科新学科の設置

学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に則した最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科及び地域や社会の将来を担う人材を育成し、現在・将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な学びに重点的に取り組む学科の設置を進める。

(5) 職業学科の学科転換

産業構造の変化や学科の配置状況、生徒の進路動向などを考慮し、職業学科の学科転換を検討する。

(6) 地域連携校の導入

他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い（普通科はおよそ1/2、専門学科はおよそ1/4）第1学年1学級の高校を地域連携校とし、協力校との連携や北海道高等学校遠隔授業配信センターからの遠隔授業の配信など、教育活動への支援等により、教育環境の充実を図る。

4 配置計画（令和 8 年度（2026年度）～10年度（2028年度））の概要

決定済みの令和 8 年度（2026年度）及び令和 9 年度（2027年度）の計画を一部変更するとともに、新たに令和10年度（2028年度）の配置計画を策定する。

(1) 学級定員

「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に基づき、1 学級の定員は40人とする。

(2) 令和 8 年度（2026年度）高校配置計画の変更

全日制課程

① 学級増

令和 7 年度（2025年度）道立高等学校入学者選抜の結果、第 2 次募集後の入学者に 1 学級相当以上の欠員が生じ学級減を行った16校のうち、栗山高校など10校について、中卒者数の状況などを勘案し、それぞれ 1 学級増を行う。

② 地域連携校の導入

教育環境の維持向上を図るため、新たに芦別高校、上川高校及び池田高校を地域連携校とする。

(3) 令和 9 年度（2027年度）高校配置計画の変更

全日制課程

学級減・学科転換

1 学級減とする北見商業高校については、主として情報及び会計に関する各分野についての知識と技術を習得させ、情報処理及び情報を活用した会計に関する活動に適切に対応できる能力と態度を育てる観点から、商業科及び情報処理科を情報会計科に学科転換する。

(4) 令和10年度（2028年度）高校配置計画

全日制課程

① 学級減

通学区域内の中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、各学校の在籍状況などを勘案し、小樽桜陽高校など 5 校で各 1 学級の減を行う。

旭川工業を学級減する計画については、地域企業等を支える専門技術者の育成に向けた学科構成の在り方などの検討をさらに深めるため、令和 8 年度（2026年度）に決定する。

② 再編整備

中卒者数の状況、学校規模、募集定員に対する欠員の状況、地元からの進学率などを総合的に勘案し、美瑛高校を募集停止とする。

③ 再編統合

釧路市内において、今後の中卒者数の状況や学校・学科の配置状況、地域の意見などを勘案し、一定の学校規模を維持し、幅広い教育課程の編成・実施を図る観点から、釧路商業高校及び釧路明輝高校を再編統合し、新設校を設置する。

なお、新設校の募集学級数は 5 学級、学科は総合学科とする。

また、再編統合に伴う在校生の進級・卒業の扱いは「学年進行方式」とする（6 の(1)参照）。

釧路明輝高校の校舎を使用する計画については、釧路市内の高校配置を検討するための期間を置き、使用校舎は令和 8 年度（2026年度）に決定する。

5 地域連携校等の再編整備の留保

第 1 学年 1 学級の高校のうち、地域連携校及び全日制課程で農業、水産、看護又は福祉に関する学科を置く高校については、5 月 1 日現在の第 1 学年の在籍者数が 2 年連続で 20 人未満となった場合であっても、道教委が所在市町村をはじめとした地域と連携して、高校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組む集中取組期間を設けて再編整備を留保することとしており、こうした状況となっている蘭越高校、虻田高校、雄武高校及び遠別農業高校について、再編整備を留保する。

6 再編統合に伴う在校生の進級・卒業の取扱い

再編統合に伴う在校生の進級・卒業の取扱いには、再編前の各校の校舎で進級・卒業する「学年進行方式」と、新設校の設置に合わせて、再編前の各校の在校生が一括して新設校の校舎で学ぶ「一括転校方式」があり、地域や再編対象校の意向を踏まえて決定する。

(1) 学年進行方式

※網掛けは新設校の生徒となる在校生

年度	再編前々年度			再編前年度			再編年度			再編翌年度			再編翌々年度			備 考
学年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
■■高校	c	b	a	d	c	b		d	c			d				
▲▲高校	ウ	イ	ア	エ	ウ	イ										
★★高校							A	エ	ウ	B	A	エ	C	B	A	▲▲高校校舎を使用

- ① 使用校舎とならない■■高校の在校生は、再編翌年度末まで■■高校の生徒として進級・卒業してゆく。
- ② 使用校舎となる▲▲高校は、再編前年度末に閉校し、その在校生は再編年度から、★★高校の生徒として進級・卒業する。
- ③ 再編年度に▲▲高校の在校生は、★★高校に在籍が変わる。

(2) 一括転校方式

※網掛けは新設校の生徒となる在校生

年度	再編前々年度			再編前年度			再編年度			再編翌年度			再編翌々年度			備 考
学年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
□□高校	c	b	a	d	c	b										
△△高校	ウ	イ	ア	エ	ウ	イ										
☆☆高校							A	d	c	B	A	d	C	B	A	△△高校校舎を使用
								エ	ウ			エ				

- ① 使用校舎に関わらず、□□高校及び△△高校は再編前年度末に閉校し、その在校生は☆☆高校の生徒として進級・卒業する。
- ② 再編年度の□□高校及び△△高校の在校生は、再編年度に☆☆高校に在籍が変わる。

7 配置計画の変更

配置計画を策定した後、急激な中卒者数の増減、市町村立高校や私立高校の設置・廃止により、生徒の進路動向に大きな変動が生じた場合など、学区における中卒者の進路動向等を見極めて、毎年度再検討するほか、次の(1)～(3)に掲げる場合にあっては配置計画を変更することとする。

- (1) 入学者選抜における第2次募集の合格発表後、配置計画で示した募集人員に対し1学級相当以上の欠員が生じた場合
- (2) 学級減と併せた学科転換、地域連携校の導入等を実施する場合
- (3) 市町村立高校について、当該市町村において募集人員等の変更を行った場合

Ⅱ 公立高等学校配置計画（令和８年度（2026年度）～10年度（2028年度））の内容

1 中学校卒業生数

令和７年(2025年)(実績)	39,970人	(対前年比 981人減少)
令和８年(2026年)(推計)	39,836人	(対前年比 134人減少)
令和９年(2027年)(推計)	39,084人	(対前年比 752人減少)
令和10年(2028年)(推計)	38,043人	(対前年比 1,041人減少)

2 欠員の状況

(令和７年（2025年）５月１日現在)

公立高等学校全日制	公立高等学校定時制	私立高等学校	合 計
3,952人 (+72人)	1,149人 (+67人)	1,587人 (+282人)	6,688人 (+421人)

※（ ）は対前年増減。中等教育学校を除く。

3 定員及び中学校卒業生数に対する割合

区 分		公 立			高等専門学校	私立	計
		全日制	定時制	中等教育学校			
令和 7 年度	定 員 (人)	28,726	2,200	240	720	11,066	42,952
	割 合 (%)	71.9	5.5	0.6	1.8	27.7	107.5
公 立 高 等 学 校 配 置 計 画	令和 8 年度	学 級 増 (人)	400	0	0	0	400
		学 級 減 (人)	-40	0	0	-15	-55
		新 設 (人)	70	0	0	0	70
		募集停止 (人)	-40	-40	0	0	-80
		差引増減 (人)	390	-40	0	-15	335
		定 員 (人)	29,116	2,160	240	11,051	43,287
		割 合 (%)	73.1	5.4	0.6	27.7	108.7
	令和 9 年度	学 級 増 (人)	0	0	0	0	0
		学 級 減 (人)	-80	0	0	0	-80
		新 設 (人)	320	0	0	0	320
		募集停止 (人)	-520	0	0	0	-520
		差引増減 (人)	-280	0	0	0	-280
		定 員 (人)	28,836	2,160	240	11,051	43,007
		割 合 (%)	73.8	5.5	0.6	28.3	110.0
	令和 10 年度	学 級 増 (人)	0	0	0	0	0
		学 級 減 (人)	-200	0	0	0	-200
		新 設 (人)	200	0	0	0	200
		募集停止 (人)	-320	0	0	0	-320
		差引増減 (人)	-320	0	0	0	-320
		定 員 (人)	28,516	2,160	240	11,051	42,687
		割 合 (%)	75.0	5.7	0.6	29.0	112.2

※１ 高等専門学校及び私立の定員については、令和８年度（2026年度）以降は見込みを記載。

※２ 霧多布高校（浜中町立）の１学級の定員は30人としている。

※３ えりも高校（えりも町立）の１学級の定員は35人としている。

※４ 大空高校（大空町立）の１学級の定員は36人としている。

※５ 新設校（二セコ町立、令和８年度（2026年度）開校）の１学級の定員は35人とする。

4 配置計画（令和8年度（2026年度）～10年度（2028年度））の学校別内訳

(1) 令和7年度（2025年度）道立高等学校入学者選抜における第2次募集後に学級減となった学校の取扱い

学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	R 7（2025） 募集学級数	R 7（2025） 開設学級数	R 8（2026） 募集学級数
空 知 南	道	栗 山	全	普 通	2	1	2
空 知 北	道	芦 別	全	普 通	2	1	地域連携校の導入 （導入後の募集学級数は1）
	道	深 川 西	全	普 通	3	2	2
石 狩	道	札幌東豊	全	普 通	3	2	2
	道	野 幌 幌	全	普 通	3	2	3
	道	千 歳 北 陽	全	総 合	4	3	4
胆 振 西	道	伊 達 開 来	全	普 通	5	4	4
日 高	道	静 内	全	普 通	5	4	5
上 川 北	道	名 寄	全	普 通	4	3	4
留 萌	道	留 萌	全	普 通	4	3	4
宗 谷	道	枝 幸	全	普 通	2	1	1
オホーツク中	道	美 幌	全	普 通	2	1	2
オホーツク西	道	湧 別	全	普 通	2	1	2
十 勝	道	清 水	全	総 合	3	2	3
	道	広 尾	全	普 通	2	1	1
根 室	道	中 標 津	全	普 通	4	3	4
計		全 1 6 校					

(2) 学級増減

① 学級増（ 網掛け＝決定済み配置計画の変更）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1 学年総学級数
						実施前	実施後		
R 8 (2026)	空 知 南	道	栗 山	全	普 通	1	2	+ 1	1 学級→2 学級
	石 狩	道	野 幌 幌	全	普 通	2	3	+ 1	2 学級→3 学級
		道	千 歳 北 陽	全	総 合	3	4	+ 1	3 学級→4 学級
	日 高	道	静 内	全	普 通	4	5	+ 1	4 学級→5 学級
	上 川 北	道	名 寄	全	普 通	3	4	+ 1	4 学級→5 学級
	留 萌	道	留 萌	全	普 通	3	4	+ 1	5 学級→6 学級
	オホーツク中	道	美 幌	全	普 通	1	2	+ 1	2 学級→3 学級
	オホーツク西	道	湧 別	全	普 通	1	2	+ 1	1 学級→2 学級
R 9 (2027)	十 勝	道	清 水	全	総 合	2	3	+ 1	2 学級→3 学級
	根 室	道	中 標 津	全	普 通	3	4	+ 1	4 学級→5 学級
R 10 (2028)	—								
計			1 0 校					+ 1 0 (+ 4 0 0)	

② 学級減

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	1 学年総学級数
						実施前	実施後		
R 8 (2026)	渡 島	道	函 館 水 産	全	水産(大学科)	4	3	－ 1	4 学級→3 学級
R 9 (2027)	オホーツク中	道	北 見 商 業	全	商業(大学科)	3	2	－ 1	3 学級→2 学級
	釧 路	道	釧 路 江 南	全	普 通	5	4	－ 1	5 学級→4 学級
	(小計)		2 校					－ 2	
R 10 (2028)	後 志	道	小 樽 桜 陽	全	普 通	5	4	－ 1	5 学級→4 学級
	胆 振 東	道	苫 小 牧 西	全	普 通	4	3	－ 1	4 学級→3 学級
	渡 島	道	函 館 西	全	普 通	6	5	－ 1	6 学級→5 学級
	上 川 南	道	旭 川 工 業	全	工業(大学科)	6	5	－ 1	6 学級→5 学級※
	十 勝	道	帯 広 緑 陽	全	普 通	4	3	－ 1	4 学級→3 学級
		道	芽 室	全	普 通	4	3	－ 1	4 学級→3 学級
	(小計)		6 校					－ 5	
計			9 校					－ 8 (－ 3 2 0)	

・北見商業の小学科については、「(5) 学科転換」を参照。

※ R 10（2028）の旭川工業については、地域企業等を支える専門技術者の育成に向けた学科構成の在り方などの検討をさらに深めるため、令和8年度（2026年度）に決定する。

(3) 再編整備

① 再編統合

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 8 (2026)	—								
R 9 (2027)	石 狩	市	市立札幌藻岩	全	普 通	6	0	－ 6	6 学級→0 学級
		市	市立札幌啓北商業	全	未 来 商 学	6	0	－ 6	6 学級→0 学級
		市	新 設 校	全	(検 討 中)	0	8	＋ 8	8 学級 市立札幌藻岩高校敷地に校舎を新築
R 10 (2028)	釧 路	道	釧 路 商 業	全	流通マテリアル	1	0	－ 1	1 学級→0 学級
					会計マテリアル	1	0	－ 1	1 学級→0 学級
					情報マテリアル	1	0	－ 1	1 学級→0 学級
		道	釧 路 明 輝	全	総 合	4	0	－ 4	4 学級→0 学級
		道	新 設 校	全	総 合	0	5	＋ 5	5 学級 【釧路明輝高校校舎を使用※】
計		再編に伴う募集停止 4 校、新設 2 校						－ 6 (－ 2 4 0)	

※ R 10（2028）の新設校については、釧路市内の高校配置を検討するための期間を置き、使用校舎は令和 8 年度（2026 年度）に決定する。

② 募集停止

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 8 (2026)	空 知 北	道	奈井江商業	全	情 報 処 理	1	0	－ 1	1 学級→0 学級
	後 志 町	道	二 セ 工	定	緑 地 観 光	1	0	－ 1	1 学級→0 学級
R 9 (2027)	渡 島	道	南 茅 部	全	普 通	1	0	－ 1	1 学級→0 学級
R 10 (2028)	上 川 南	道	美 瑛	全	普 通	1	0	－ 1	1 学級→0 学級
計		4 校						－ 4 (－ 1 6 0)	

(4) 新設

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 8 (2026)	後 志 町	道	新 設 校	全	総 合	0	2	＋ 2	2 学級 二セ工高校校舎を使用
R 9 (2027)	—								
R 10 (2028)	—								
計		1 校						＋ 2 (＋ 7 0)	

(5) 学科転換（網掛け＝決定済み配置計画の変更）

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課 程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘 要
						実施前	実施後		
R 8 (2026)	渡 島 道		函 館 水 産	全	水 産 食 品	1	0	－ 1	(再掲) 1 学年総学級数 4 学級→3 学級
					品質管理流通	1	0	－ 1	
					食 品 創 造	0	1	＋ 1	
R 9 (2027)	オホーツク中 道		北 見 商 業	全	商 業 科	1	0	－ 1	(再掲) 1 学年総学級数 3 学級→2 学級
					情報処理科	1	0	－ 1	
					情報会計科	0	1	＋ 1	
R 10 (2028)	—								

(6) 単位制の導入

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	募集学級数	摘 要
R 8 (2026)	—						
R 9 (2027)	石 狩 市		新 設 校	全	(検 討 中)	8	(再掲) 市立札幌藻岩・市立札幌啓北商業の再編
R 10 (2028)	—						

(7) 地域連携校の導入 (網掛け = 決定済み配置計画の変更)

実施年度	学 区	設置	学 校 名	課程	小 学 科	協 力 校	摘 要
R 8 (2026)	空 知 北	道	芦 別	全	普 通	滝 川	
	上 川 南	道	上 川	全	普 通	旭 川 東	
	十 勝	道	池 田	全	総 合	常 広 三 条	
R 9 (2027)	—						
R 10 (2028)	—						

5 中学校卒業者数の推計及び推移

中 学 校 卒 業 者 数 推 計 表 （ 令和 7 年(2025年)推計 ）

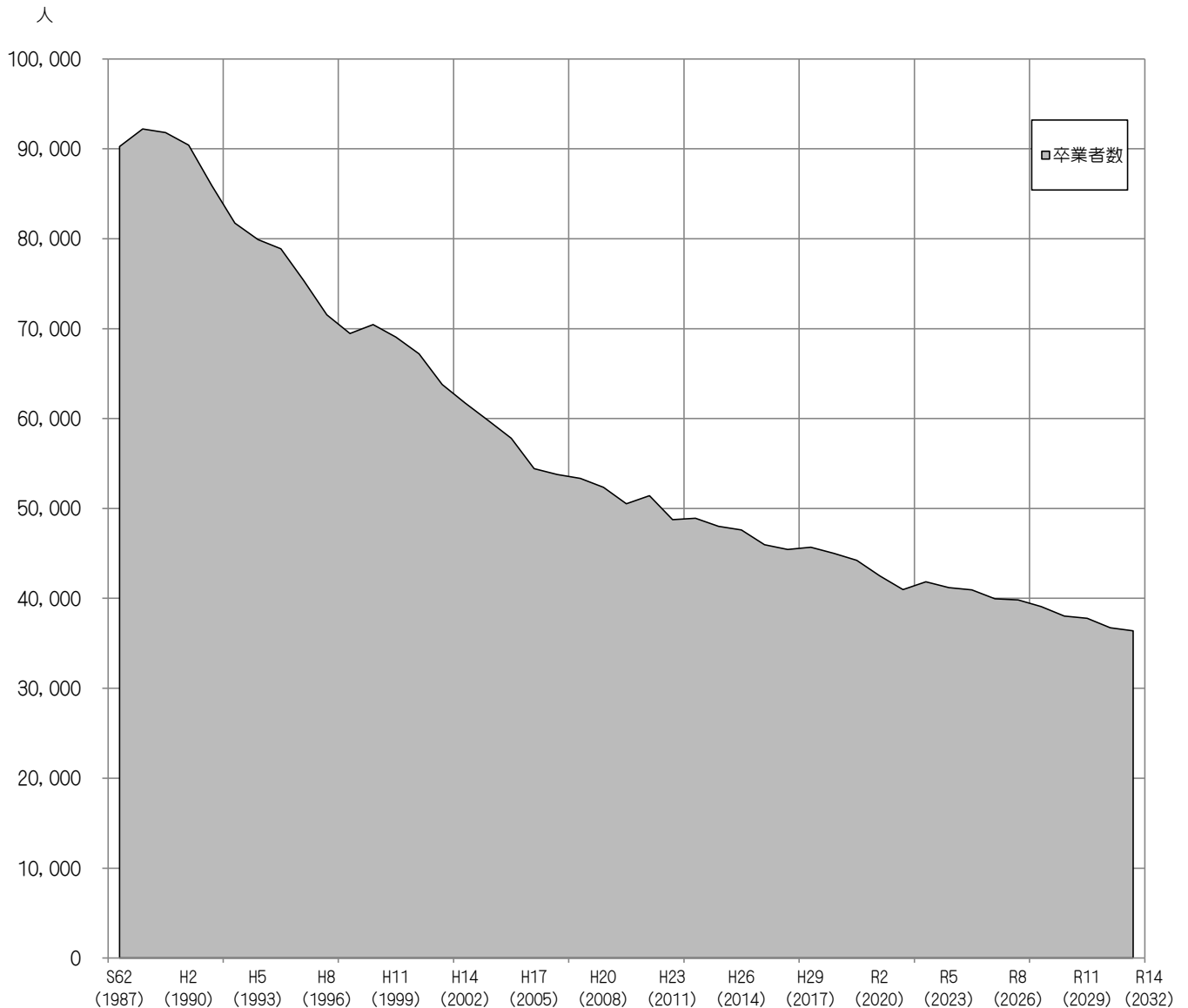
	令和 7 年 (2025年)	令和 8 年 (2026年)	令和 9 年 (2027年)	令和10年 (2028年)	令和11年 (2029年)	令和12年 (2030年)	令和13年 (2031年)	令和14年 (2032年)
空 知 南	1,051	1,027 ▲ 24	1,009 ▲ 18	929 ▲ 80	973 +44	921 ▲ 52	841 ▲ 80	882 +41
空 知 北	820	816 ▲ 4	758 ▲ 58	722 ▲ 36	734 +12	706 ▲ 28	682 ▲ 24	636 ▲ 46
石 狩	19,144	19,246 +102	18,801 ▲ 445	18,607 ▲ 194	18,774 +167	18,682 ▲ 92	18,667 ▲ 15	17,756 ▲ 911
後 志	1,365	1,329 ▲ 36	1,307 ▲ 22	1,238 ▲ 69	1,278 +40	1,144 ▲ 134	1,147 +3	1,038 ▲ 109
胆 振 西	1,228	1,193 ▲ 35	1,209 +16	1,198 ▲ 11	1,064 ▲ 134	1,039 ▲ 25	1,097 +58	993 ▲ 104
胆 振 東	1,713	1,672 ▲ 41	1,629 ▲ 43	1,613 ▲ 16	1,596 ▲ 17	1,522 ▲ 74	1,503 ▲ 19	1,421 ▲ 82
日 高	476	476 ±0	438 ▲ 38	457 +19	396 ▲ 61	425 +29	395 ▲ 30	357 ▲ 38
渡 島	2,729	2,666 ▲ 63	2,660 ▲ 6	2,483 ▲ 177	2,457 ▲ 26	2,314 ▲ 143	2,306 ▲ 8	2,052 ▲ 254
檜 山	208	209 +1	201 ▲ 8	168 ▲ 33	181 +13	148 ▲ 33	141 ▲ 7	138 ▲ 3
上 川 南	3,248	3,206 ▲ 42	3,188 ▲ 18	3,100 ▲ 88	3,093 ▲ 7	2,965 ▲ 128	2,911 ▲ 54	2,753 ▲ 158
上 川 北	420	398 ▲ 22	394 ▲ 4	374 ▲ 20	342 ▲ 32	322 ▲ 20	345 +23	300 ▲ 45
留 萌	263	282 +19	263 ▲ 19	259 ▲ 4	235 ▲ 24	223 ▲ 12	184 ▲ 39	191 +7
宗 谷	424	410 ▲ 14	395 ▲ 15	398 +3	383 ▲ 15	366 ▲ 17	341 ▲ 25	330 ▲ 11
オホーツク中	1,097	1,176 +79	1,071 ▲ 105	1,115 +44	1,043 ▲ 72	925 ▲ 118	962 +37	927 ▲ 35
オホーツク東	481	467 ▲ 14	476 +9	440 ▲ 36	430 ▲ 10	384 ▲ 46	391 +7	352 ▲ 39
オホーツク西	383	413 +30	406 ▲ 7	356 ▲ 50	369 +13	354 ▲ 15	311 ▲ 43	288 ▲ 23
十 勝	2,748	2,706 ▲ 42	2,758 +52	2,631 ▲ 127	2,532 ▲ 99	2,474 ▲ 58	2,378 ▲ 96	2,312 ▲ 66
釧 路	1,590	1,610 +20	1,533 ▲ 77	1,419 ▲ 114	1,398 ▲ 21	1,364 ▲ 34	1,306 ▲ 58	1,244 ▲ 62
根 室	582	534 ▲ 48	588 +54	536 ▲ 52	524 ▲ 12	457 ▲ 67	493 +36	435 ▲ 58
合 計	39,970	39,836 ▲ 134	39,084 ▲ 752	38,043 ▲ 1,041	37,802 ▲ 241	36,735 ▲ 1,067	36,401 ▲ 334	34,405 ▲ 1,996

※中学校卒業者数は、令和 7 年（2025年）5 月 1 日現在の小学校 1 年生から中学校 3 年生までの在籍児童・生徒数を基に、過去の社会的増減等を勘案した推計値。

※令和 7 年（2025年）は実数、令和 8 年（2026年）以降の上段は中卒者数、下段は前年比増減。

北海道における中学校卒業（見込）者数の推移 （昭和62年（1987年）～令和14年（2032年））

（注） 1 昭和62年（1987年）～令和 7 年（2025年）は実卒業者数である。
2 令和 8 年（2026年）～令和14年（2032年）は学校基本調査（令和 7 年（2025年）5 月 1 日現在）に準じた調査による在籍児童・生徒数を基に推計した。



Ⅲ 公立高等学校配置計画（令和８年度（2026年度）～10年度（2028年度））学区別個表

空知南学区高校配置計画																			
区 分		R 7 (2025)		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		令和 8 ～14 (2026～2032) 年までの増減	令和11～14 (2029～2032) 年までの増減
学区内中卒者数		1, 051		1, 027		1, 009		929		973		921		841		882		▲ 169	▲ 47
対前年増減				▲ 24		▲ 18		▲ 80		+ 44		▲ 52		▲ 80		+ 41			
岩見沢市中卒者数		(581)		(595)		(583)		(520)		(549)		(512)		(483)		(473)		▲ 108	▲ 47
対前年増減				+ 14		▲ 12		▲ 63		+ 29		▲ 37		▲ 29		▲ 10			
美唄市中卒者数		(122)		(108)		(90)		(94)		(94)		(99)		(74)		(94)		▲ 28	± 0
対前年増減				▲ 14		▲ 18		+ 4		± 0		+ 5		▲ 25		+ 20			
三笠市中卒者数		(46)		(44)		(34)		(47)		(37)		(43)		(39)		(44)		▲ 2	▲ 3
対前年増減				▲ 2		▲ 10		+ 13		▲ 10		+ 6		▲ 4		+ 5			
夕張市中卒者数		(29)		(25)		(33)		(24)		(22)		(19)		(17)		(23)		▲ 6	▲ 1
対前年増減				▲ 4		+ 8		▲ 9		▲ 2		▲ 3		▲ 2		+ 6			
学校名		令和 7 年度 (2025年度)の状況 学科及び募集学級数			R 7 (2025) 欠員		令和 8 年度 (2026年度)		令和 9 年度 (2027年度)		令和10年度 (2028年度)		令和11～14年度（2029～2032年度） までの見通し				摘要		
		普通	職業	計															
単 普 新	岩見沢東	6		6	38								○4年間で1～2学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置 状況などを考慮し、最も学校・学級数が多い 岩見沢市を中心に、周辺市町を含めた公 立高校全体の配置の在り方の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校につい て、定員を含む学科構成の在り方について 検討が必要 ○2年連続で20人未満となったため、集中 取組期間（地域における高校の教育機能の 維持向上に向けた具体的取組とその効果を 助成した一定の期間）を設けて再編整備を 留保されている地域連携校等については、 取組内容やその効果などに大きな変動があ る場合、必要に応じて集中取組期間の見直 しを検討することとしており、一層魅力あ る高校づくりを推進し入学者を確保するこ とが必要				月形、夕張の協力校 文理探究科(普通科新学科)		
	岩見沢農業		農 7	7	86														
	*岩見沢緑陵	4	商 2	6	20														
総	美唄尚米	2		2	37														
	美唄聖華		看 2	2	28														
	*三 笠		家 1	1	0														
地	月 形	1		1	24												再編整備留保		
地	夕 張	1		1	17														
	長 沼	2		2	35														
	栗 山	2→1		1	4	普+1 (計画変更)											R 7 (2025)入選第2次募集 後学級減		
10校		18 →17	12	29	289	普+1													

注1 学科種別の「普通」には、普通科のほか、総合学科、理数、外国語、体育等の専門学科を含む。(以下同)

注2 学校名の「単」は単位制、「総」は総合学科、「普新」は普通科新学科設置校、「ア」はアンビシャススクール、「中高」は連携型中高一貫教育校、「※中高」は連携型中高一貫教育校に準じる学校、「中等」は中等教育学校、「地」は地域連携校。(以下同)

注3 学校名の*は市町村立学校。(以下同)

注4 ()は定時制課程で計欄に含まない。(以下同)

注5 令和7年度(2025年度)募集学級数の「→」表示は、第2次募集後の学級減を実施したことを示す。(以下同)

注6 「令和11～14年度(2029～2032年度)までの見通し」欄の学級数の調整については令和14年(2032年)と令和10年(2028年)の中卒者数の比較により算出。(以下同)

空知北学区高校配置計画											
区 分	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	R 14 (2032)	令和8～14 (2026～2032) 年までの増減	令和11～14 (2029～2032) 年までの増減	
学区内中卒者数	820	816	758	722	734	706	682	636	▲ 184	▲ 86	
対前年増減		▲ 4	▲ 58	▲ 36	+ 12	▲ 28	▲ 24	▲ 46			
滝川市中卒者数	(287)	(281)	(287)	(231)	(247)	(217)	(217)	(210)	▲ 77	▲ 21	
対前年増減		▲ 6	+ 6	▲ 56	+ 16	▲ 30	± 0	▲ 7			
砂川市中卒者数	(108)	(107)	(89)	(109)	(81)	(101)	(91)	(80)	▲ 28	▲ 29	
対前年増減		▲ 1	▲ 18	+ 20	▲ 28	+ 20	▲ 10	▲ 11			
歌志内市中卒者数	(11)	(4)	(10)	(7)	(7)	(3)	(7)	(6)	▲ 5	▲ 1	
対前年増減		▲ 7	+ 6	▲ 3	± 0	▲ 4	+ 4	▲ 1			
芦別市中卒者数	(61)	(63)	(53)	(55)	(53)	(52)	(38)	(47)	▲ 14	▲ 8	
対前年増減		+ 2	▲ 10	+ 2	▲ 2	▲ 1	▲ 14	+ 9			
赤平市中卒者数	(52)	(42)	(50)	(36)	(44)	(35)	(32)	(42)	▲ 10	+ 6	
対前年増減		▲ 10	+ 8	▲ 14	+ 8	▲ 9	▲ 3	+ 10			
深川市中卒者数	(117)	(122)	(98)	(121)	(120)	(116)	(113)	(101)	▲ 16	▲ 20	
対前年増減		+ 5	▲ 24	+ 23	▲ 1	▲ 4	▲ 3	▲ 12			
学校名	令和7年度 (2025年度)の状況 学科及び募集学級数			R 7 (2025) 欠員	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11～14年度 (2029～2032年度) までの見通し	摘要		
	普通	職業	計								
単 滝 川	5		5	14	芦別の協力校 (計画変更)			○4年間で2～3学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置 状況などを考慮し、最も学校・学級数が多い 滝川市を中心に、周辺市町を含めた公立 高校全体の配置の在り方の検討が必要 ○地域連携校等について、5月1日現在の在 籍者数が20人未満となった場合は、所在 市町村をはじめとした地域と連携して、高 校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組 む集中取組期間を設けて再編整備の留保の 検討が必要			
滝川工業		工 2	2	38							
*滝川西	3	商 3	6	38							
単 砂 川	2		2	29							
奈井江商業		商 1	1	32	商▲1						
新十津川農業		農 1	1	8							
芦 別	2→1		1	17	地域連携校導入 (計画変更)				R 7 (2025)入選第2次募集 後学級減		
深川西	3→2		2	16					R 7 (2025)入選第2次募集 後学級減		
深川東		農 1	1	21							
9校	15 →13	8	21	213	商▲1						

石狩学区高校配置計画

区 分		R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	R 14 (2032)	令和 8～14 (2026～2032) 年までの増減	令和11～14 (2029～2032) 年までの増減	
学区内中卒者数		19, 144	19, 246	18, 801	18, 607	18, 774	18, 682	18, 667	17, 756	▲ 1, 388	▲ 851	
対前年増減			+ 102	▲ 445	▲ 194	+ 167	▲ 92	▲ 15	▲ 911			
札幌市中卒者数		(15, 248)	(15, 424)	(14, 974)	(14, 901)	(15, 029)	(14, 971)	(14, 981)	(14, 258)	▲ 990	▲ 643	
対前年増減			+ 176	▲ 450	▲ 73	+ 128	▲ 58	+ 10	▲ 723			
江別市中卒者数		(1, 123)	(1, 183)	(1, 172)	(1, 142)	(1, 184)	(1, 158)	(1, 130)	(1, 130)	+ 7	▲ 12	
対前年増減			+ 60	▲ 11	▲ 30	+ 42	▲ 26	▲ 28	± 0			
千歳市中卒者数		(878)	(856)	(883)	(842)	(862)	(832)	(841)	(781)	▲ 97	▲ 61	
対前年増減			▲ 22	+ 27	▲ 41	+ 20	▲ 30	+ 9	▲ 60			
恵庭市中卒者数		(653)	(633)	(626)	(616)	(643)	(637)	(638)	(581)	▲ 72	▲ 35	
対前年増減			▲ 20	▲ 7	▲ 10	+ 27	▲ 6	+ 1	▲ 57			
北広島市中卒者数		(618)	(546)	(555)	(518)	(495)	(530)	(464)	(465)	▲ 153	▲ 53	
対前年増減			▲ 72	+ 9	▲ 37	▲ 23	+ 35	▲ 66	+ 1			
石狩市中卒者数		(499)	(505)	(478)	(486)	(461)	(454)	(501)	(438)	▲ 61	▲ 48	
対前年増減			+ 6	▲ 27	+ 8	▲ 25	▲ 7	+ 47	▲ 63			
学校名	令和7年度 (2025年度)の状況 学科及び募集学級数			R 7 (2025) 欠員	令和 8 年度 (2026年度)	令和 9 年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11～14年度 (2029～2032年度) までの見通し			摘要	
	普通	職業	計					○ 4 年間で公私比率勘案後13～14学級に相当する中卒者の減 ○ 中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、札幌市の整備計画も踏まえた上で、札幌市内の再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要 ○ 欠員が 4 0 人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要 ○ 複数の学科を設置している定時制課程について、いずれかの学科で 5 月 1 日現在の第 1 学年の在籍者数が 1 0 人未満となりその後も生徒数の増が見込まれない場合は、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要（札幌工業、札幌琴似工業）				
札 幌 東	8		8	0								
札 幌 西	8		8	0								
札 幌 南	8		8	-1								
札 幌 北	8		8	-3								
札幌月寒	8		8	-2								
札幌啓成	8		8	0								
札幌北陵	8		8	0								
単 札幌手稲	8		8	0								
札幌丘珠	7		7	25								
札幌西陵	6		6	7								
単 札幌白石	7		7	0								
単 札幌東陵	7		7	0								
札幌南陵	2		2	16								
札幌東豊	3→2		2	1								
総 札幌厚別	7		7	0								
札幌真栄	5		5	20								
札幌あすかぜ	2		2	0								
札幌稲雲	7		7	0								
札幌平岡	6		6	-1								
単 札幌英藍	7		7	0								
											R 7 (2025)入選第 2 次募集後学級減	

学校名	令和7年度 (2025年度)の状況 学科及び募集学級数			R7 (2025) 欠員	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11～14年度(2029～2032年度) までの見通し	摘要
	普通	職業	計						
札幌白陵	2		2	24					
札幌国際情報	4	工 1 商 3	8	0					
江 別	5	商 1 家 1	7	11					
ア 野 幌	3→2		2	19	普+1 (計画変更)				R7(2025)入選第2次募集 後学級減
単 大 麻	7		7	0					
千 歳	6	商 2	8	13					
総 ア 千歳北陽	4→3		3	19	総+1 (計画変更)				R7(2025)入選第2次募集 後学級減
単 北 広 島	7		7	0					
北広島西	4		4	29					
石 狩 南	7		7	0					
当 別	1	農 1 家 1	3	58					
恵 庭 南	7		7	33					
恵 庭 北	6		6	11					
札幌工業		工 8	8	48					
札幌琴似工業		工 8	8	0					
札幌東商業		商 8	8	4					
総 石狩翔陽	8		8	3					
単 *市立札幌旭丘	8		8	-1					
単 *市立札幌藻岩	6		6	-1		普▲6			
*市立札幌啓北商業		商 6	6	0		商▲6			
*新設校						+8 単位制導入 (学科検討中)			市立札幌藻岩高校敷地に校 舎を新築
*市立札幌平岸	8		8	0					
単 *市立札幌清田	6		6	0					
中 等 *市立札幌開成	4		4	7					
*市立札幌新川	8		8	-1					
44校	241 →238	40	278	338	普+1 総+1	普▲6 商▲6 +8 (学科検討中)			

後志学区高校配置計画

区 分				R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	R 14 (2032)	令和 8 ～14 (2026～2032) 年までの増減	令和11～14 (2029～2032) 年までの増減		
学区内中卒者数				1, 365	1, 329	1, 307	1, 238	1, 278	1, 144	1, 147	1, 038	▲ 327	▲ 200		
対前年増減					▲ 36	▲ 22	▲ 69	+ 40	▲ 134	+ 3	▲ 109				
小樽市中卒者数				(717)	(685)	(687)	(628)	(638)	(591)	(602)	(529)	▲ 188	▲ 99		
対前年増減					▲ 32	+ 2	▲ 59	+ 10	▲ 47	+ 11	▲ 73				
学校名	令和7年度 (2025年度)の状況 学科及び募集学級数			R 7 (2025) 欠員	令和 8 年度 (2026年度)	令和 9 年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11～14年度 (2029～2032年度) までの見通し				摘要			
	普通	職業	計												
小樽潮陵	5		5	0				○4年間で公私比率勘案後3～4学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、最も学校・学級数が多い小樽市を中心に、周辺市町を含めた公立高校全体の配置の在り方の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要 ○2年連続で20人未満となったため、集中取組期間（地域における高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案した一定の期間）を設けて再編整備を留保されている地域連携校等については、取組内容やその効果などに大きな変動がある場合、必要に応じて集中取組期間の見直しを検討することとしており、一層魅力ある高校づくりを推進し入学者を確保することが必要 ○小樽市内の定時制課程について、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となるなど小規模化していることから、生徒の進路動向を踏まえながら今後の在り方について検討が必要							
単 小樽桜陽	5		5	0			普▲1								
単 小樽未来創造		工 2 商 2	4	14											
小樽水産		水 4	4	48											
総 余市紅志	1		1	17											
単 岩 内	2	商 1	3	58											寿都の協力校
地 寿 都	1		1	12											
単 倶 知 安	4		4	38											蘭越の協力校
地 蘭 越	1		1	22											再編整備留保
倶知安農業		農 1	1	16											
(*二セコ)		(農1)	(1)	(-2)	(農▲1)										
*新設校					総+2							二セコ高校校舎を使用			
10校	19	10	29	225	総+2		普▲1								

胆振西学区高校配置計画																					
区 分		R 7 (2025)		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		令和8～14 (2026～2032) 年までの増減		令和11～14 (2029～2032) 年までの増減	
学区内中卒者数		1, 228		1, 193		1, 209		1, 198		1, 064		1, 039		1, 097		993		▲ 235		▲ 205	
対前年増減				▲ 35		＋ 16		▲ 11		▲ 134		▲ 25		＋ 58		▲ 104					
室蘭市中卒者数		(517)		(504)		(536)		(520)		(449)		(442)		(453)		(421)		▲ 96		▲ 99	
対前年増減				▲ 13		＋ 32		▲ 16		▲ 71		▲ 7		＋ 11		▲ 32					
登別市中卒者数		(361)		(361)		(353)		(371)		(317)		(296)		(352)		(310)		▲ 51		▲ 61	
対前年増減				± 0		▲ 8		＋ 18		▲ 54		▲ 21		＋ 56		▲ 42					
伊達市中卒者数		(254)		(221)		(237)		(216)		(214)		(201)		(222)		(165)		▲ 89		▲ 51	
対前年増減				▲ 33		＋ 16		▲ 21		▲ 2		▲ 13		＋ 21		▲ 57					
学校名		令和7年度 (2025年度)の状況 学科及び募集学級数			R 7 (2025) 欠員	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11～14年度(2029～2032年度) までの見通し								摘要				
		普通	職業	計					○4年間で公私比率助産後4～5学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、室蘭市内及び周辺市町も含めた圏域での再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要 ○2年連続で20人未満となったため、集中取組期間（地域における高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を助産した一定の期間）を設けて再編整備を留保されている地域連携校等については、取組内容やその効果などに大きな変動がある場合、必要に応じて集中取組期間の見直しを検討することとしており、一層魅力ある高校づくりを推進し入学者を確保することが必要												
室 蘭 栄	5		5	0																	
単 室蘭清水丘	4		4	15																	
総 室蘭東翔	4		4	0																	
室蘭工業		工 3	3	48																	
単 登別青嶺	3		3	32																	
中 登別明日	2		2	12																	
単 伊達開来	5→4		4	24																	
地 虻 田		商 1	1	28												虻田の協力校 R 7 (2025)入選第2次募集後学級減					
*壮 鷺		農 1	1	26												再編整備留保					
9校	23 →22	5	27	185																	

胆振東学区高校配置計画

区 分		R 7 (2025)		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		令和 8 ～14 (2026～2032) 年までの増減	令和11～14 (2029～2032) 年までの増減
学区内中卒者数		1, 713		1, 672		1, 629		1, 613		1, 596		1, 522		1, 503		1, 421		▲ 292	▲ 192
対前年増減				▲ 41		▲ 43		▲ 16		▲ 17		▲ 74		▲ 19		▲ 82			
苫小牧市中卒者数		(1, 460)		(1, 448)		(1, 432)		(1, 396)		(1, 395)		(1, 329)		(1, 316)		(1, 234)		▲ 226	▲ 162
対前年増減				▲ 12		▲ 16		▲ 36		▲ 1		▲ 66		▲ 13		▲ 82			
学校名	令和7年度 (2025年度)の状況 学科及び募集学級数			R 7 (2025) 欠員	令和 8 年度 (2026年度)	令和 9 年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11～14年度 (2029～2032年度) までの見通し								摘要			
	普通	職業	計					○ 4 年間で公私比率勘案後 3 ～ 4 学級に相当する中卒者の減 ○ 中卒者数や生徒の進路動向、学校・学科の配置状況などを考慮し、苫小牧市内及び周辺市町における圏域での再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要								厚真の協力校			
苫小牧東	6		6	0															
苫小牧西	4		4	0			普▲ 1												
単 苫小牧南	4		4	1															
苫小牧工業		工 6	6	19															
苫小牧総合経済		商 3	3	1															
白 老 東	2		2	20															
地 厚 真	1		1	15															
追 分	1		1	14															
中高 鶴 川	2		2	39															
9校	20	9	29	109			普▲ 1												

日高学区高校配置計画																					
区 分		R 7 (2025)		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		令和 8～14 (2026～2032) 年までの増減	令和11～14 (2029～2032) 年までの増減		
学区内中卒者数		476		476		438		457		396		425		395		357		▲ 119	▲ 100		
対前年増減				± 0		▲ 38		+ 19		▲ 61		+ 29		▲ 30		▲ 38					
浦河町中卒者数		(72)		(94)		(64)		(75)		(62)		(77)		(68)		(53)		▲ 19	▲ 22		
対前年増減				+ 22		▲ 30		+ 11		▲ 13		+ 15		▲ 9		▲ 15					
学校名	令和7年度 (2025年度)の状況 学科及び募集学級数			R 7 (2025) 欠員	令和 8 年度 (2026年度)	令和 9 年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11～14年度 (2029～2032年度) までの見通し								摘要					
	普通	職業	計																		
単 静 内	5→4		4	2	普＋1 (計画変更)			○ 4 年間で 2 ～ 3 学級に相当する中卒者の減 ○ 中卒者数や欠員の状況を考慮し、学区全体の 高校配置の在り方について検討が必要 ○ 地域連携校以外の第 1 学年 1 学級の高校に ついて、5 月 1 日現在の第 1 学年の在籍者 数が 2 年連続して 2 0 人未満となった場合 は、再編整備の検討が必要								平取の協力校 R 7 (2025)入選第 2 次募集 後学級減					
静内農業		農 2	2	30																	
富 川	1		1	24																	
地 平 取	1		1	19																	
総 浦 河	3		3	38																	
中高 *え り も	2		2	41																	
6校	12 →11	2	13	154	普＋1																

渡島学区高校配置計画

区 分		R 7 (2025)		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		令和 8 ～14 (2026～2032) 年までの増減	令和11～14 (2029～2032) 年までの増減
学区内中卒者数		2,729		2,666		2,660		2,483		2,457		2,314		2,306		2,052		▲ 677	▲ 431
対前年増減				▲ 63		▲ 6		▲ 177		▲ 26		▲ 143		▲ 8		▲ 254			
函館市中卒者数		(1,757)		(1,743)		(1,746)		(1,580)		(1,621)		(1,521)		(1,517)		(1,330)		▲ 427	▲ 250
対前年増減				▲ 14		+ 3		▲ 166		+ 41		▲ 100		▲ 4		▲ 187			
北斗市中卒者数		(381)		(367)		(359)		(366)		(303)		(324)		(302)		(303)		▲ 78	▲ 63
対前年増減				▲ 14		▲ 8		+ 7		▲ 63		+ 21		▲ 22		+ 1			
学校名		令和7年度 (2025年度)の状況 学科及び募集学級数			R 7 (2025) 欠員	令和 8 年度 (2026年度)	令和 9 年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11～14年度 (2029～2032年度) までの見通し								摘要		
		普通	職業	計															
函館中部		5		5	0				○4年間で公私比率助産後6～7学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数やこれまでの定員調整の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、函館市内及び周辺市町における圏域での再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要 ○地域連携校等について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域と連携して、高校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組む集中取組期間を設けて再編整備の留保の検討が必要 ○2年連続で20人未満となったため、集中取組期間（地域における高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を助産した一定の期間）を設けて再編整備を留保されている地域連携校等については、取組内容やその効果などに大きな変動がある場合、必要に応じて集中取組期間の見直しを検討することとしており、一層魅力ある高校づくりを推進し入学者を確保することが必要 なお、集中取組期間中において、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続で10人未満となった場合は、再編整備を進める								南茅部の協力校		
単 函 館 西		6		6	0			普▲1									松前の協力校		
単 *市立函館		5		5	0														
函館水産			水 4	4	69	水▲1													
函館商業			商 4	4	0														
函館工業			工 5	5	4														
地 南 茅 部		1		1	31		普▲1												
上 磯		1		1	10														
七 飯		3		3	37														
大野農業			農 3	3	67														
地 松 前		1		1	24														
*知 内		2		2	50														
地 福島商業			商 1	1	20														
八 雲		2	商 1	3	58											長万部の協力校			
総 地 森		1		1	15														
地 長 万 部		1		1	33											再編整備留保			
16校		28	18	46	418	水▲1	普▲1	普▲1											

檜山学区高校配置計画																			
区 分		R 7 (2025)		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		令和 8 ～14 (2026～2032) 年までの増減	令和11～14 (2029～2032) 年までの増減
学区内中卒者数		208		209		201		168		181		148		141		138		▲ 70	▲ 30
対前年増減				＋ 1		▲ 8		▲ 33		＋ 13		▲ 33		▲ 7		▲ 3			
江差町中卒者数		(39)		(41)		(36)		(34)		(41)		(25)		(19)		(41)		＋ 2	＋ 7
対前年増減				＋ 2		▲ 5		▲ 2		＋ 7		▲ 16		▲ 6		＋ 22			
学校名		令和 7 年度 (2025年度)の状況 学科及び募集学級数			R 7 (2025) 欠員	令和 8 年度 (2026年度)	令和 9 年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11～14年度 (2029～2032年度) までの見通し								摘要		
		普通	職業	計															
単	江 差	2		2	33				○ 4年間で0 ～ 1 学級に相当する中卒者の減 ○ 中卒者数や欠員の状況を考慮し、学区全体の 高校配置の在り方について検討が必要 ○ 2 年連続で 2 0 人未満となったため、集中 取組期間（地域における高校の教育機能の 維持向上に向けた具体的取組とその効果を 勘案した一定の期間）を設けて再編整備を 留保されている地域連携校等については、 取組内容やその効果などに大きな変動がある 場合、必要に応じて集中取組期間の見直し を検討することとしており、一層魅力ある 高校づくりを推進し入学者を確保することが必要								上ノ国の協力校		
地	上 ノ 国	1		1	24												再編整備留保		
総	檜 山 北	2		2	29														
中高	* 奥 尻	1		1	21														
4校		6	0	6	107														

上川南学区高校配置計画

区 分	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	R 14 (2032)	令和8～14 (2026～2032) 年までの増減	令和11～14 (2029～2032) 年までの増減
学区内中卒者数	3, 248	3, 206	3, 188	3, 100	3, 093	2, 965	2, 911	2, 753	▲ 495	▲ 347
対前年増減		▲ 42	▲ 18	▲ 88	▲ 7	▲ 128	▲ 54	▲ 158		
旭川市中卒者数	(2, 509)	(2, 449)	(2, 454)	(2, 376)	(2, 381)	(2, 289)	(2, 254)	(2, 144)	▲ 365	▲ 232
対前年増減		▲ 60	+ 5	▲ 78	+ 5	▲ 92	▲ 35	▲ 110		
富良野市中卒者数	(145)	(173)	(153)	(160)	(148)	(121)	(120)	(105)	▲ 40	▲ 55
対前年増減		+ 28	▲ 20	+ 7	▲ 12	▲ 27	▲ 1	▲ 15		
学校名	令和7年度 (2025年度)の状況 学科及び募集学級数			R 7 (2025) 欠員	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11～14年度 (2029～2032年度) までの見通し	摘要	
旭 川 東	6		6	0	上川の協力校 (計画変更)			○4年間で公私比率勘案後5～6学級に相当 する中卒者の減		
単 旭 川 西	5		5	0				○中卒者数や生徒の進路動向、学校・学科の 配置状況などを考慮し、旭川市内及び周辺 町における再編整備を含めた定員調整な ど、公立高校全体の配置の在り方の検討が 必要		
単 旭 川 北	5		5	0						
総 旭 川 南	5		5	0						
単 旭川永嶺	5		5	0				○地域連携校等について、5月1日現在の在 籍者数が20人未満となった場合は、所在 市町村をはじめとした地域と連携して、高 校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組 む集中取組期間を設けて再編整備の留保の 検討が必要		
旭川商業		商 5	5	4						
旭川工業		工 6	6	0			(工▲1)			
旭川農業		農 4	4	0						
鷹 栖	1		1	19						
東 川	2		2	7						
美 瑛	1		1	23			普▲1			
中高 上 川	1		1	22	地域連携校導入 (計画変更)					
単 富 良 野	3	工 1 農 1	5	52						
上富良野	1		1	19						
*南富良野	1		1	16						
15校	36	17	53	162			普▲1 (工▲1)			

※旭川工業については、地域企業等を支える専門技術者の育成に向けた学科構成の在り方などの検討をさらに深めるため、令和8年度（2026年度）に決定する。

上川北学区高校配置計画																				
区 分		R 7 (2025)		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		令和 8 ～14 (2026～2032) 年までの増減	令和11～14 (2029～2032) 年までの増減	
学区内中卒者数		420		398		394		374		342		322		345		300		▲ 120	▲ 74	
対前年増減				▲ 22		▲ 4		▲ 20		▲ 32		▲ 20		+ 23		▲ 45				
土別市中卒者数		(127)		(109)		(119)		(78)		(99)		(86)		(90)		(83)		▲ 44	+ 5	
対前年増減				▲ 18		+ 10		▲ 41		+ 21		▲ 13		+ 4		▲ 7				
名寄市中卒者数		(183)		(178)		(187)		(186)		(163)		(167)		(166)		(138)		▲ 45	▲ 48	
対前年増減				▲ 5		+ 9		▲ 1		▲ 23		+ 4		▲ 1		▲ 28				
学校名		令和 7 年度 (2025年度)の状況 学科及び募集学級数			R 7 (2025) 欠員	令和 8 年度 (2026年度)	令和 9 年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11～14年度 (2029～2032年度) までの見通し								摘要			
		普通	職業	計					○ 4 年間で 1 ～ 2 学級に相当する中卒者の減 ○ 欠員が 4 0 人以上生じている学校について、 定員を含む学科構成の在り方について 検討が必要								下川商業の協力校			
土別翔雲		3	商 1	4	63												美深の協力校 R 7 (2025)入選第 2 次募集 後学級減			
地 下川商業			商 1	1	9															
単 名 寄		4→3	工 1	4	29	普+ 1 (計画変更)														
地 美 深		1		1	12															
総 *剣 淵		1		1	22															
*おといねっぶ 美術工芸		1		1	-1															
6校		10 →9	3	12	134	普+ 1														

留萌学区高校配置計画

区 分		R 7 (2025)		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		令和 8～14 (2026～2032) 年までの増減	令和11～14 (2029～2032) 年までの増減
学区内中卒者数		263		282		263		259		235		223		184		191		▲ 72	▲ 68
対前年増減				＋ 19		▲ 19		▲ 4		▲ 24		▲ 12		▲ 39		＋ 7			
留萌市中卒者数		(116)		(115)		(133)		(98)		(103)		(112)		(80)		(95)		▲ 21	▲ 3
対前年増減				▲ 1		＋ 18		▲ 35		＋ 5		＋ 9		▲ 32		＋ 15			
学校名		令和7年度 (2025年度)の状況 学科及び募集学級数			R 7 (2025) 欠員	令和 8 年度 (2026年度)	令和 9 年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11～14年度 (2029～2032年度) までの見通し						摘要				
		普通	職業	計															
単 留 萌	4→3	工 1 商 1	5	81	普＋1 (計画変更)				○4年間で1～2学級に相当する中卒者の減 ○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要 ○地域連携校等について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域と連携して、高校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組む集中取組期間を設けて再編整備の留保の検討が必要 ○2年連続で20人未満となったため、集中取組期間（地域における高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案した一定の期間）を設けて再編整備を留保されている地域連携校等については、取組内容やその効果などに大きな変動がある場合、必要に応じて集中取組期間の見直しを検討することとしており、一層魅力ある高校づくりを推進し入学者を確保することが必要						苫前商業、天塩の協力校 R 7 (2025)入選第2次募集後学級減				
羽 幌	2		2	39															
地 苫前商業		商 1	1	9															
地 天 塩	1		1	25															
遠別農業		農 1	1	21															
															再編整備留保				
5校	7→6	4	10	175	普＋1														

宗谷学区高校配置計画														
区 分		R 7 (2025)			R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	R 14 (2032)	令和 8～14 (2026～2032) 年までの増減	令和11～14 (2029～2032) 年までの増減	
学区内中卒者数		424			410	395	398	383	366	341	330	▲ 94	▲ 68	
対前年増減					▲ 14	▲ 15	+ 3	▲ 15	▲ 17	▲ 25	▲ 11			
稚内市中卒者数		(216)			(232)	(211)	(222)	(217)	(211)	(174)	(179)	▲ 37	▲ 43	
対前年増減					+ 16	▲ 21	+ 11	▲ 5	▲ 6	▲ 37	+ 5			
学校名		令和 7 年度 (2025年度)の状況 学科及び募集学級数			R 7 (2025) 欠員	令和 8 年度 (2026年度)	令和 9 年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11～14年度 (2029～2032年度) までの見通し				摘要	
		普通	職業	計										
単 稚 内	3	商 1 看 1	5	57					○4年間で公私比率勘案後 1 ～ 2 学級に相当する中卒者の減 ○欠員が 4 0 人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要 ○第1 学年 1 学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携校に位置付け、遠隔授業の配信による教育課程の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要				豊富の協力校 普通科、商業科単位制	
地 豊 富	1		1	14										
浜 頓 別	1		1	20										
校 幸	2→1		1	8										
利 尻	1		1	24										
礼 文	1		1	23										
6校	9→8	2	10	146										

オホーツク中学区高校配置計画

区 分		R 7 (2025)		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		令和 8 ～14 (2026～2032) 年までの増減	令和11～14 (2029～2032) 年までの増減	
学区内中卒者数		1, 097		1, 176		1, 071		1, 115		1, 043		925		962		927		▲ 170	▲ 188	
対前年増減				＋ 79		▲ 105		＋ 44		▲ 72		▲ 118		＋ 37		▲ 35				
北見市中卒者数		(834)		(903)		(821)		(848)		(816)		(730)		(779)		(722)		▲ 112	▲ 126	
対前年増減				＋ 69		▲ 82		＋ 27		▲ 32		▲ 86		＋ 49		▲ 57				
学校名	令和 7 年度 (2025年度)の状況 学科及び募集学級数			R 7 (2025) 欠員	令和 8 年度 (2026年度)	令和 9 年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11～14年度 (2029～2032年度) までの見通し							摘要					
	普通	職業	計																	
北見北斗	6		6	2				○ 4 年間で公私比率勘案後 4 ～ 5 学級に相当する中卒者の減							常呂の協力校					
単 北見柏陽	5		5	0				○ 中卒者数や生徒の進路動向、学校・学科の配置状況などを考慮し、北見市内及び周辺町における圏域での再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要							佐呂間の協力校					
単 北見緑陵	3		3	0																
北見工業		工 3	3	60				○ 欠員が 4 0 人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要												
北見商業		商 3	3	27		商▲ 1		○ 地域連携校等について、5 月 1 日現在の在籍者数が 2 0 人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域と連携して、高校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組む集中取組期間を設けて再編整備の留保の検討が必要												
置 戸		福 1	1	26											再編整備留保					
地 佐 呂 間	1		1	18				○ 2 年連続で 2 0 人未満となったため、集中取組期間（地域における高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案した一定の期間）を設けて再編整備を留保されている地域連携校等については、取組内容やその効果などに大きな変動がある場合、必要に応じて集中取組期間の見直しを検討することとしており、一層魅力ある高校づくりを推進し入学者を確保することが必要												
地 常 呂	1		1	29																再編整備留保
訓 子 府	1		1	9																
地 津 別	1		1	23																
美 幌	2→1	農 1	2	43	普＋ 1 (計画変更)															津別の協力校 R T (2025)入選第 2 次募集 後学級減
11校	20 →19	8	27	237	普＋ 1	商▲ 1														

オホーツク東学区高校配置計画																					
区 分		R 7 (2025)		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		令和8～14 (2026～2032) 年までの増減		令和11～14 (2029～2032) 年までの増減	
学区内中卒者数		481		467		476		440		430		384		391		352		▲ 129		▲ 88	
対前年増減				▲ 14		＋ 9		▲ 36		▲ 10		▲ 46		＋ 7		▲ 39					
網走市中卒者数		(263)		(256)		(249)		(235)		(227)		(175)		(213)		(183)		▲ 80		▲ 52	
対前年増減				▲ 7		▲ 7		▲ 14		▲ 8		▲ 52		＋ 38		▲ 30					
学校名		令和7年度 (2025年度)の状況 学科及び募集学級数			R 7 (2025) 欠員	令和8年度 (2026年度)		令和9年度 (2027年度)		令和10年度 (2028年度)		令和11～14年度 (2029～2032年度) までの見通し					摘要				
		普通	職業	計																	
単 網走南ヶ丘		4		4	0							○4年間で2～3学級に相当する中卒者の減 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、最も学校・学級数が多い網走市を中心に、高校配置の在り方の検討が必要 ○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要 ○第1学年1学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携校に位置付け、遠隔授業の配信による教育課程の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要					清里の協力校				
網走桂陽		2	商 2	4	57																
総 斜 里		1		1	16																
地 清 里		1		1	14																
総 *大 空		1		1	6																
5校		9	2	11	93																

オホーツク西学区高校配置計画

区 分		R 7 (2025)			R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		令和 8～14 (2026～2032) 年までの増減	令和11～14 (2029～2032) 年までの増減
学区内中卒者数		383			413		406		356		369		354		311		288		▲ 95	▲ 68
対前年増減					＋ 30		▲ 7		▲ 50		＋ 13		▲ 15		▲ 43		▲ 23			
紋別市中卒者数		(112)			(137)		(144)		(108)		(130)		(122)		(98)		(94)		▲ 18	▲ 14
対前年増減					＋ 25		＋ 7		▲ 36		＋ 22		▲ 8		▲ 24		▲ 4			
学校名		令和 7 年度 (2025年度)の状況 学科及び募集学級数			R 7 (2025) 欠員	令和 8 年度 (2026年度)	令和 9 年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11～14年度 (2029～2032年度) までの見通し								摘要			
		普通	職業	計																
単 遠 軽	5			5	17				○ 4 年間で 1 ～ 2 学級に相当する中卒者の減								興部、雄武の協力校			
紋 別	3	商 1 工 1		5	82				○ 欠員が 4 0 人以上生じている学校について、 定員を含む学科構成の在り方について 検討が必要											
地 興 部	1			1	30				○ 第 1 学年 1 学級の高校のうち、地理的狀況 から再編が困難であり、かつ地元からの進 学率が高い高校については、地域連携校に 位置付け、遠隔授業の配信による教育課程 の充実や、地域と連携した高校の魅力化等 により、可能な限り存続を図ることが必要								再編整備留保			
地 雄 武	1			1	26												再編整備留保			
※ 中 高	湧 別	2→1		1	5	普＋1 (計画変更)			○ 2 年連続で 2 0 人未満となったため、集中 取組期間（地域における高校の教育機能の 維持向上に向けた具体的取組とその効果を 勘案した一定の期間）を設けて再編整備を 留保されている地域連携校等については、 取組内容やその効果などに大きな変動がある 場合、必要に応じて集中取組期間の見直し を検討することとしており、一層魅力ある 高校づくりを推進し入学者を確保すること が必要								R 7 (2025)入選第 2 次募集 後学級減			
									○ 定時制課程について、5 月 1 日現在の第 1 学年の在籍者数が 3 年連続で 1 0 人未満と なり、その後も生徒数の増が見込まれない 場合は、定時制課程の配置状況を考慮しな がら、再編整備の検討が必要（遠軽）											
5校	12 →11	2		13	160	普＋1														

十勝学区高校配置計画																						
区 分		R 7 (2025)			R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		令和 8～14 (2026～2032) 年までの増減		令和11～14 (2029～2032) 年までの増減	
学区内中卒者数		2, 748			2, 706		2, 758		2, 631		2, 532		2, 474		2, 378		2, 312		▲ 436		▲ 319	
対前年増減					▲ 42		+ 52		▲ 127		▲ 99		▲ 58		▲ 96		▲ 66					
帯広市中卒者数		(1, 321)			(1, 276)		(1, 335)		(1, 293)		(1, 191)		(1, 220)		(1, 157)		(1, 172)		▲ 149		▲ 121	
対前年増減					▲ 45		+ 59		▲ 42		▲ 102		+ 29		▲ 63		+ 15					
学校名		令和 7 年度 (2025年度)の状況 学科及び募集学級数			R 7 (2025) 欠員		令和 8 年度 (2026年度)		令和 9 年度 (2027年度)		令和10年度 (2028年度)		令和11～14年度 (2029～2032年度) までの見通し					摘要				
		普通	職業	計																		
単	帯広柏葉	6		6	0							○ 4 年間で公私比率勘案後 6 ～ 7 学級に相当する中卒者の減					本別の協力校					
	帯広三条	6		6	1	池田の協力校 (計画変更)					○ 中卒者数や生徒の進路動向、学校・学科の配置状況などを考慮し、帯広市内及び周辺町における再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要											
	帯広緑陽	4		4	0					普▲ 1												
	帯広工業		工 4	4	0						○ 欠員が 4 0 人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要											
	帯広農業		農 5	5	0						○ 第 1 学年 1 学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、地域連携校に位置付け、遠隔授業の配信による教育課程の充実や、地域と連携した高校の魅力化等により、可能な限り存続を図ることが必要											
	* 帯広南商業		商 5	5	0																	
	音 更	3		3	32						○ 地域連携校等について、5 月 1 日現在の在籍者数が 2 0 人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域と連携して、高校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組む集中取組期間を設けて再編整備の留保の検討が必要											
	芽 室	4		4	3						普▲ 1											
	幕別清陵	3		3	5																	
	上 士 幌	2		2	38																	
普新	* 士 幌		農 2	2	41																	
	総 清 水	3→2		2	32	総 + 1 (計画変更)										R 7 (2025)入選第 2 次募集 後学級減						
	中高 鹿 追	2		2	1																	
	更別農業		農 2	2	42																	
	大 樹	1		1	17											地域探究科(普通科新学科)						
	中高 広 尾	2→1		1	8											R 7 (2025)入選第 2 次募集 後学級減						
	総 池 田	1		1	25	地域連携校導入 (計画変更)																
	地 本 別	1		1	17																	
	足 寄	2		2	36																	
	19校	40 →38	18	56	298	総 + 1					普▲ 2											

釧路学区高校配置計画																					
区 分		R 7 (2025)		R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		令和 8～14 (2026～2032) 年までの増減		令和11～14 (2029～2032) 年までの増減	
学区内中卒者数		1,590		1,610		1,533		1,419		1,398		1,364		1,306		1,244		▲ 346		▲ 175	
対前年増減				＋ 20		▲ 77		▲ 114		▲ 21		▲ 34		▲ 58		▲ 62					
釧路市中卒者数		(1,183)		(1,203)		(1,153)		(1,067)		(1,032)		(1,002)		(969)		(926)		▲ 257		▲ 141	
対前年増減				＋ 20		▲ 50		▲ 86		▲ 35		▲ 30		▲ 33		▲ 43					
学校名		令和7年度 (2025年度)の状況 学科及び募集学級数			R 7 (2025) 欠員	令和 8 年度 (2026年度)		令和 9 年度 (2027年度)		令和10年度 (2028年度)		令和11～14年度 (2029～2032年度) までの見通し					摘 要				
		普通	職業	計																	
普新	釧路湖陵	5		5	4							○4年間で公私比率勘案後4～5学級に相当する中卒者の減					阿寒の協力校 文理探究科(普通科新学科)				
単	釧路江南	5		5	16			普▲1				○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、釧路市内及び周辺町村における圏域での再編整備を含めた定員調整など、公立高校全体の配置の在り方の検討が必要					弟子屈の協力校				
	釧路工業		工 5	5	55							○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要									
	釧路商業		商 3	3	1					商▲3		○地域連携校等について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域と連携して、高校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組む集中取組期間を設けて再編整備の留保の検討が必要									
総	釧路明輝	4		4	1					総▲4											
新設校										総＋5							(釧路明輝高校校舎を使用※)				
単	*釧路北陽	5		5	0																
	釧路東	2		2	23																
地	阿寒	1		1	20																
	白糠	1		1	13																
総	標茶	2		2	25																
地	弟子屈	1		1	24																
	厚岸翔洋	1	水 1	2	53																
	*霧多布	2		2	45																
13校		29	9	38	280			普▲1		商▲3 総＋5		総▲4									

※新設校については、釧路市内の高校配置を検討するための期間を置き、使用校舎は令和8年度（2026年度）に決定する。

根室学区高校配置計画																						
区 分		R 7 (2025)			R 8 (2026)		R 9 (2027)		R 10 (2028)		R 11 (2029)		R 12 (2030)		R 13 (2031)		R 14 (2032)		令和8～14 (2026～2032) 年までの増減		令和11～14 (2029～2032) 年までの増減	
学区内中卒者数		582			534		588		536		524		457		493		435		▲ 147		▲ 101	
対前年増減					▲ 48		+ 54		▲ 52		▲ 12		▲ 67		+ 36		▲ 58					
根室市中卒者数		(155)			(136)		(148)		(130)		(150)		(130)		(140)		(121)		▲ 34		▲ 9	
対前年増減					▲ 19		+ 12		▲ 18		+ 20		▲ 20		+ 10		▲ 19					
学校名		令和7年度 (2025年度)の状況 学科及び募集学級数			R 7 (2025) 欠員		令和8年度 (2026年度)		令和9年度 (2027年度)		令和10年度 (2028年度)		令和11～14年度 (2029～2032年度) までの見通し					摘要				
		普通	職業	計																		
単 根 室	3	商 2	5	84								○4年間で2～3学級に相当する中卒者の減					標津、羅臼の協力校 R 7 (2025)入選第2次募集 後学級減					
別 海	3	農 1	4	70								○欠員が40人以上生じている学校について、定員を含む学科構成の在り方について検討が必要										
中 標 津	4→3	商 1	4	15	普+1 (計画変更)							○地域連携校等について、5月1日現在の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域と連携して、高校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組む集中取組期間を設けて再編整備の留保の検討が必要										
地 標 津	1		1	8																		
*中標津農業		農 2	2	48																		
中 高 地	1		1	23																		
6校	12 →11	6	17	248	普+1																	